

2010年12月期 第2四半期決算説明会

2010年8月16日

おいしさを笑顔に

KIRIN

キリンホールディングス株式会社

I : マネジメントメッセージ P 3

II : 2010年12月期 第2四半期決算概況 P 5

III : 2010年12月期 通期業績予想 P11

※略称一覧

(1)社名

KH	キリンホールディングス
KB	キリンビール
KMD	キリンマーチャндаイジング
KKF	キリン協和フーズ
KHB	協和発酵バイオ
KBE	キリンビジネスエクスパート
LN	ライオンネイサン
DF	デアリーファーマーズ
SMC	サンミゲル

(2)その他

CCT	クロス・カンパニー・チーム
-----	---------------

ME	メルシャン
KBC	キリンビバレッジ
KHK	協和発酵キリン
KHC	協和発酵ケミカル
LNNF	ライオンネイサン ナショナルフーズ
NFL	ナショナルフーズ
SMB	サンミゲルビール
F & N	フレイザー・アンド・ニーヴ社

マネジメントメッセージ

- 各事業の上半期業績は順調に推移
- 2010年-2012年中期経営計画の初年度として、「グループシナジーの創出」「リーン経営の実現」を軸に、“質的拡大”を積極的に推進し、お客様への新たな価値提案に取り組む

各事業とも上半期業績は順調、キリンブランド価値向上に向け下半期も取り組みを強化

- KB、KBC、MEが定番ブランド強化と収益性の向上を追求
- KHK(医薬)では、薬価改定の影響を受けるも、主力品の販売が好調に推移
- LNNFは酒類・飲料・食品事業ともに、計画を着実に実行
- グループ横断ブランド「キリンプラスアイ」の下、グループ4社より健康・機能性食品の第一弾商品を発売

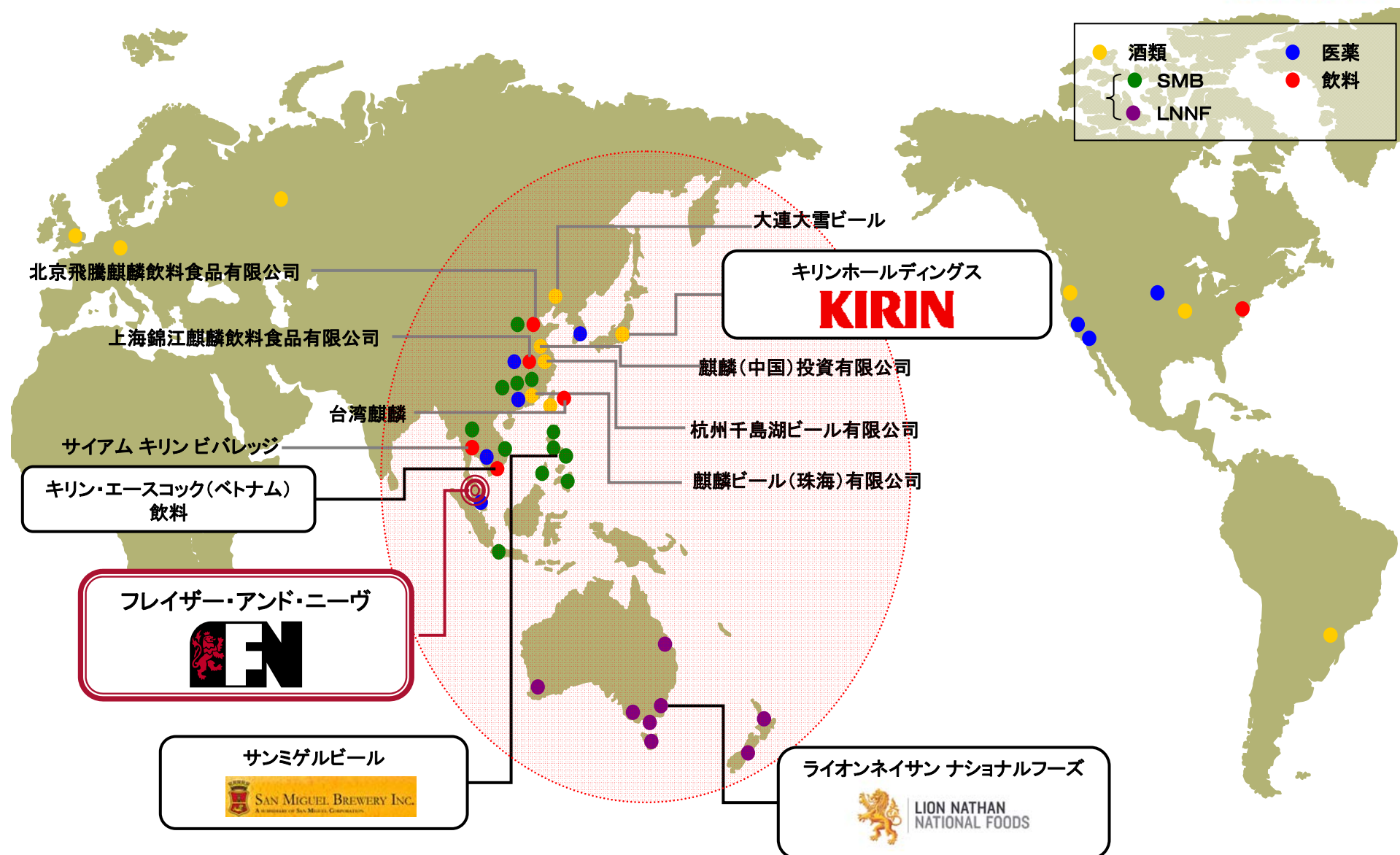
全社中計課題は計画どおり実行中、CCTを軸に取り組みを加速

- 資産流動化は順調に推移、経営効率の向上と財務健全性の確保に向け、今後も計画を確実に実行
- 事業ポートフォリオの選択と集中、グループ内事業再編も順調に推移
- KB営業部門の再編を決定、KMD酒類部門と統合した、より強力な営業体制を構築
- 新KBEを設立、間接部門の効率化をより一層推進

アジア・オセアニアでの国際総合飲料グループ戦略を今後より一層推進

- フレイザー・アンド・ニーヴ社発行済株式の約14.7%を取得、東南アジア飲料事業基盤強化の第一歩
- 豪州での総合飲料グループ戦略をより一層推進、統合プロセス・シナジー創出への取り組みを加速
- SMB社との取り組みを軸に、東南アジアでの酒類事業展開を強化

キリンのアジア・オセアニア地域における展開



第2四半期決算 総括

- 上半期は豪州NFLの決算期変更の影響で減収も、収益改善への取り組みにより増益を達成
- ブランド強化と収益性の向上により営業利益は対前年同期比48.9%増の598億円、年初計画の500億円もクリア

億円		四半期 累計実績	前年増減		期初業績予想比	
			増減	前年比(%)	増減	計画比(%)
売上高	酒税抜き	8,562	—	—	—	—
	酒税込み	10,101	▲502	▲4.7	▲198	▲1.9
営業利益	のれん等償却前	796	—	—	—	—
	のれん等償却後	598	196	48.9	98	19.7
経常利益		562	▲0	▲0.2	102	22.4
四半期純利益		71	▲77	▲52.2	▲28	▲28.4
営業利益率(%) (酒税抜き)	のれん等償却前	9.3	—	—	—	—
	のれん等償却後	7.0	—	—	—	—
EBITDA		1,044	138	15.3	—	—
ROE(のれん等償却前)(%)		3.0	—	—	—	—

第2四半期決算 ハイライト

売上高

- 豪州NFLの決算期変更に伴う影響を除けば実質増収
- 国内酒類・飲料市場における消費回復が遅れる中、グループ全体で減収を最小限に留める
- 対豪ドル円安による豪州売上高円換算、市況回復による化学品事業の増収等が全体に寄与

営業利益

- 全グループをあげてブランド強化と収益性の改善に取り組み、対前年・計画とも増益を達成
- CCTによるコストシナジー創出および各社コスト削減に向けた取り組みを計画どおり推進
- ME水産飼料事業の不適切取引に起因する営業損失▲11億円を計上

経常利益

- LNNFのグループ円建借入金による前年為替差益の裏返し・金融収支の影響により経常利益は前年並

四半期純利益

- ME水産飼料事業の不適切取引による四半期純利益への影響は合計▲42億円（過年度損失修正損▲53億円を特損計上）
- 在外子会社(※)清算における為替差損(特別損失75億円) ※キリンホールディングス・ネザーランド社(オランダ)
- LN100%化に伴う少数株主持分の消滅

第2四半期 事業セグメント別実績

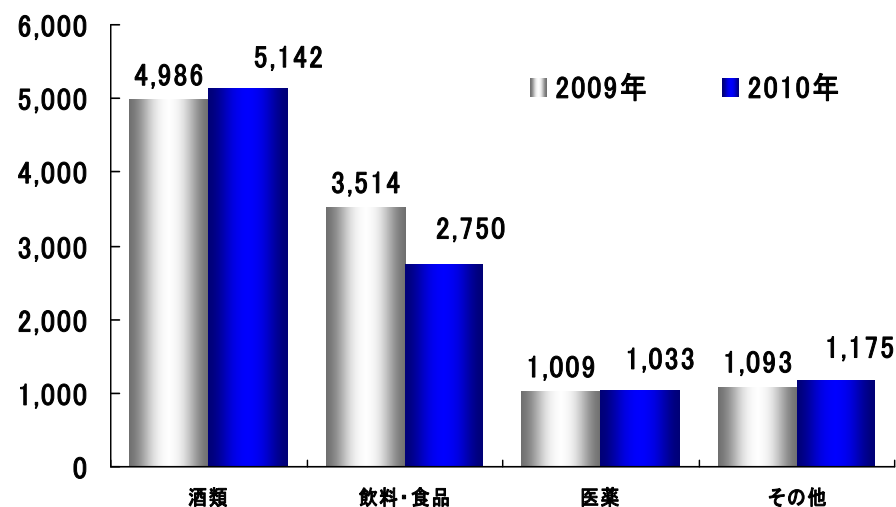
※短信補足資料P3-4 参照

おいしさを笑顔に
KIRIN

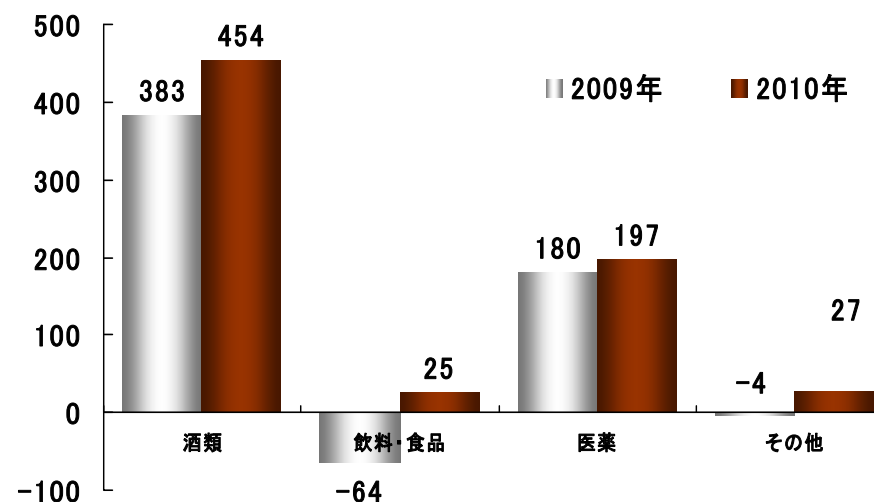
- 売上高：酒類、医薬、その他事業が増収、飲料・食品事業は豪州決算期変更の影響等により減収
- 営業利益：全事業セグメントにおいて、対前年増益を達成

売上高(億円)※

※外部顧客に対する売上高



営業利益(億円)



●各社営業利益増減一覧

酒類		飲料・食品		医薬		その他	
KB	+39	KBC	+29	KHK	+17	KHB	▲3
LNNF	+8	LNNF	+38			KHC	+72
ME	+6	その他	+22			ME	▲16
その他	+17					その他	▲20
合計	+70	合計	+90	合計	+17	合計	+31

第2四半期 事業セグメント別ハイライト

酒類

KB

- 「キリン のどごしく生」を6月からリニューアル、新ジャンルにおける圧倒的な地位をさらに強固に。
- 引き続き好調な「キリンフリー」に加え、新商品「休む日のAlc.0.00%」の販売予定を当初目標の2倍に上方修正
- 市場が厳しく減収となるなか、全社的なコストダウンへの取り組みにより対前年で営業増益を達成

ME

- ブランド強化と収益構造改革に取り組み、ワイン事業が1998年以来12年ぶりに上半期営業黒字を達成

LNNF

- 市場のプレミアムシフトを確実にキャッチ、付加価値商品も好調で、増収を達成
- 豪ドル為替レートの回復も寄与し営業増益

飲料・食品

KBC

- 「強いブランド創り」と「収益構造改革」に取り組み、対前年で営業増益を達成
- 「キリン午後の紅茶 エスプレッソティー」が目標を当初の2倍に上方修正

LNNF

- 決算期変更およびDF統合に伴う一部ブランド売却（'09年）の影響により、売上高は減少
- 当期の連結期間は1～3月の3ヶ月であるが、38億円の営業増益

医薬

KHK

- KW-0761など主要パイプラインが順調に進捗
- 導出による一時金収入の増加に加え、アジアを中心とした海外現地ビジネスが全般に好調

その他

KHB

- アジア向けの輸液用アミノ酸や医薬用原料が好調に販売数量を伸ばす

KHC

- 国内景気回復に伴う需要増と輸出の好調に加え、原燃料価格上昇に対応した価格改定により損益を大幅に回復

CCTコストシナジー進捗状況

- 上半期は計画を前倒しで実行、組織体制等の整備と課題整理を軸に取り組みを強化
- 下半期は各課題に確実に取り組み、年初計画の達成を目指す

億円	2010年 貢献目標	上半期実績 (進捗率)	主な取り組み
生産・物流	8	0 (0%)	■ KB工場再編への取り組みを計画どおり推進 ■ KBE品質・環境推進部の新設により、グループの品質・環境マネジメント機能を強化
調達	46	30 (65. 2%)	■ KB・KBCの企画＋ソーシング(見積り・査定等)機能を集約・一元化 ■ 汎用品に関するKB・KBC両社アウトソーシング実施によるコスト削減 ■ KB・KBCの原料・包装資材をはじめとする共同調達の実施
IT 他	21	21 (100%)	■ 情報インフラコスト削減、全体最適なIT環境構築に向けた諸課題を計画どおり実行
合計	75	51 (68. 0%)	

中計課題への取り組み(進捗状況)

資産圧縮に向けた取り組み (CCT)

- 年間計画400億円に対し、上半期において約200億円を実行
- 不動産、投資有価証券、事業各社の保有資産等を中心に計画どおり推進

事業ポートフォリオの選択と集中

- 3月末 アグリバイオ事業を外部化
- ナガノトマト社の飲料製造受託事業を新設分割、食品製造販売事業を外部化 (9月末実行予定)

グループ内事業再編 (CCT)

- 7月1日付にて、MEおよびKHBの原料アルコール事業を第一アルコール社に、MEの加工用酒類・発酵調味料事業をKKFに、それぞれ計画どおり再編・一元化を完了

健康・機能性食品事業の推進

- 1月に“麒麟の健康プロジェクト”としての取り組みを発表
- 発売約4ヶ月で年間販売目標50億円を突破
- 各商品の共通素材オルニチンは、製造・販売を担当するKHBにおいて上半期販売量が対前年約5倍

通期業績予想

- 通期業績予想は、売上高・当期純利益を除き、年初計画どおり
- 上半期営業利益は対計画大幅増益を達成するも、厳しい市場環境や各社の費用進捗状況を踏まえ、年間については年初予定並みを見込む
- ME水産飼料事業部における不適切取引の影響、及び在外子会社清算における為替差損等により当期純利益を下方修正

億円		通期業績予想 (期央修正)	前年比 (%)	今回 修正	通期業績予想 (年初)	前年比 (%)
売上高	酒税抜き	18,350	▲4.4	▲250	18,600	▲3.1
	酒税込み	21,800	▲4.3	▲400	22,200	▲2.6
営業利益	のれん等償却前	1,750	11.0	0	1,750	11.0
	のれん等償却後	1,330	3.6	0	1,330	3.6
経常利益		1,250	▲13.6	0	1,250	▲13.6
当期純利益		350	▲28.8	▲130	480	▲2.4
営業利益率 (酒税抜き) (%)	のれん等償却前	9.5	1.3(※)	0.1	9.4	1.2(※)
	のれん等償却後	7.3	0.6(※)	0.1	7.2	0.5(※)
EBITDA		2,520	▲18.4	▲280	2,800	31.6
ROE(のれん等償却前)(%)		8.3	0(※)	▲1.2	9.5	1.2(※)

(※) 営業利益率・ROEの前年比は、前年数値との差異を表示

通期業績予想のポイント および 下半期全社取り組み

全社業績予想

〔  上方修正  期初計画通り  下方修正 〕

売上高



国内酒類・飲料事業において、猛暑による最盛期の好調は期待できるものの、市場は依然として先行き不透明感が強く、上半期の計画未達を踏まえ年間計画を下方修正

営業利益



売上高減少に伴う利益減少分を、引き続き全社で収益構造改革を推進することによりカバー。営業外損益も期初計画より変更なし

当期純利益



ME水産飼料事業の不適切取引に起因する損失(合計▲42億円)、および、在外子会社※清算における為替差損(特別損失75億円)により、当期純利益を下方修正

※キリンホールディングスネザーランド社(オランダ)

主要事業各社業績予想

	売上高	営業利益	修正理由
KB			上半期販売計画未達と市場の不透明感が続くが、主力ブランドへの集中的取組みと、収益構造改革を継続
KBC			
ME			水産飼料事業の不適切取引影響
LNNF			飲料・食品事業における、PBをはじめとする低価格品台頭による価格競争激化
KHK			薬価改定の影響あるも医薬は堅調な見通し、化学品市況が計画以上に好調

下半期 取り組みのポイント

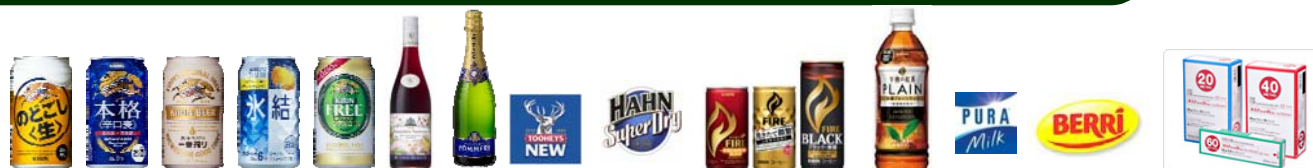
グループシナジー創出とリーン経営推進による一層の競争力強化

- CCT営業利益貢献目標75億円の達成
- 資産流動化 年間400億円達成にむけ取り組みを加速

国際総合飲料グループ戦略のさらなる推進

- 豪州における総合飲料グループ戦略の一層の推進
- F&N社とのシナジー創出にむけた対話を加速

事業各社におけるマーケティングカ・ブランド強化によるお客様価値の創造



KB	●拡大する新ジャンル市場で、新商品「本格〈辛口麦〉」と「のどごしく生」の2本柱を中心に展開 ●ビールテイスト飲料市場の拡大に伴い、「キリンフリー」、休肝日を推奨する「休む日のAlc. 0.00%」を強化
ME	●「ボージョレ・ヌーヴォー」販売目標達成、および最盛期におけるスパークリングワインの拡売強化
KBC	●中核ブランドである「午後の紅茶」「ファイア」の更なるブランド価値強化に取り組む
LNNF	●(酒類) 引き続き基盤ブランド強化とプレミアムおよび高付加価値商品に活動を集中 ●(飲料・食品) 最優先課題である統合シナジーの実現とブランド強化に向けた活動の継続
KHK	●貧血治療剤「ネスプ」の保存期腎性貧血領域でのプロモーション強化
KHB	●輸液・医療用を中心とするアミノ酸等の高付加価値品の拡販、「キリン プラスアイ」効果も寄与

おいしさを笑顔に

KIRIN

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

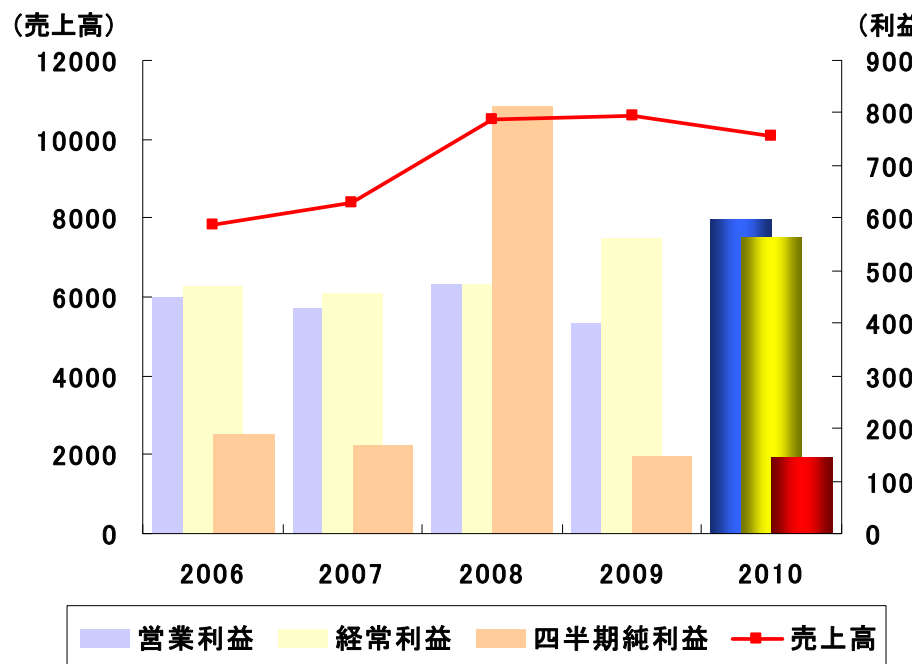
**This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation
or offer to buy or sell securities or related financial instruments.**

補足資料編

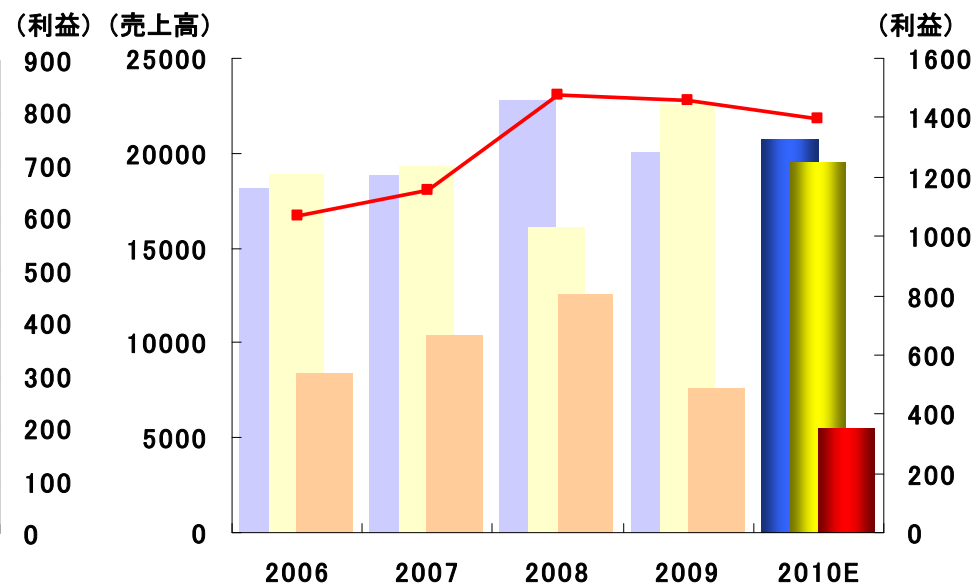
■過去5年間の業績推移		P17
■事業セグメント別 売上高・営業利益の推移		18
■のれん等償却 2010年予定		19
■為替インパクト(豪ドル)		20
■各社連結期間		21
■メルシャン不適切取引に伴う損失の決算上の影響		22
■KB営業部門の組織体制変更		23
■KBEの組織改変		24
■キリンの健康プロジェクト		25
■KB・ME・KBC 下半期新商品		26
■抗体医薬パイプライン(2010年7月現在)		27
■在外会社(LNNF、SMB)		28～29
■フレイザー & ニーヴ社 概要		30～33

過去5年間の業績推移

第2四半期累計



年間

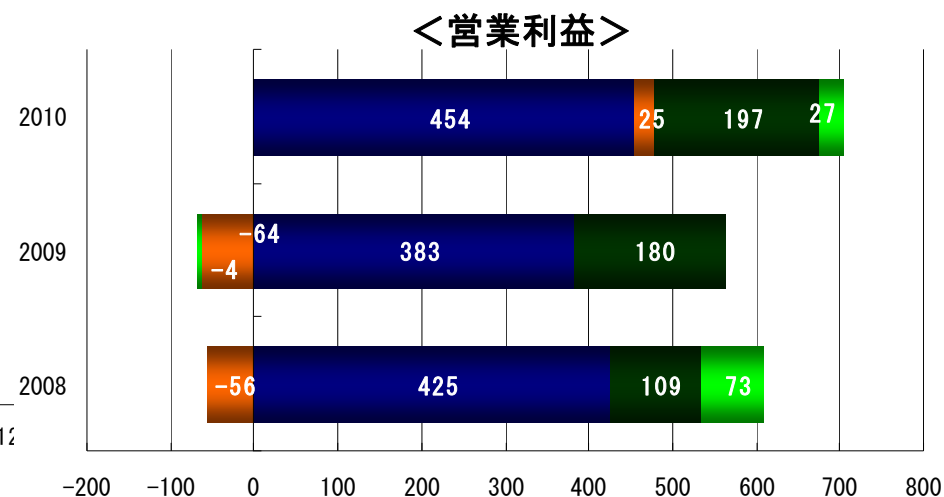
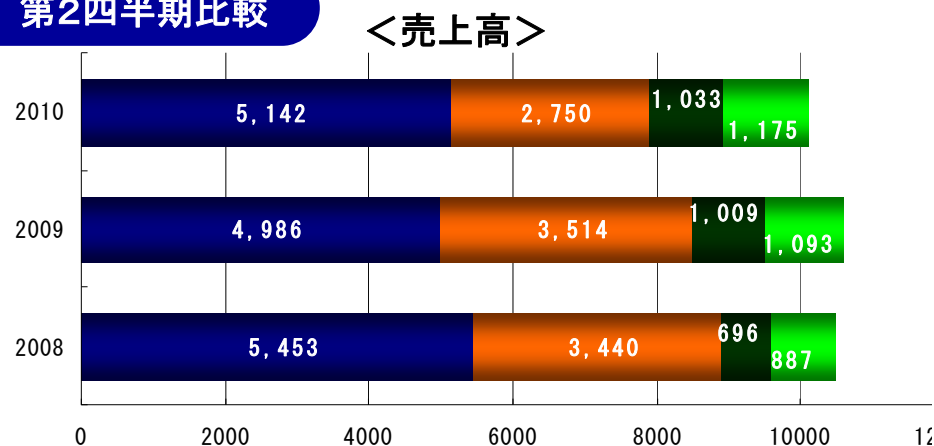


億円	2006	2007	2008	2009	2010
売上高	7,827	8,369	10,478	10,604	10,101
営業利益	449	428	475	401	598
経常利益	471	456	476	563	562
四半期純利益	189	167	811	149	71

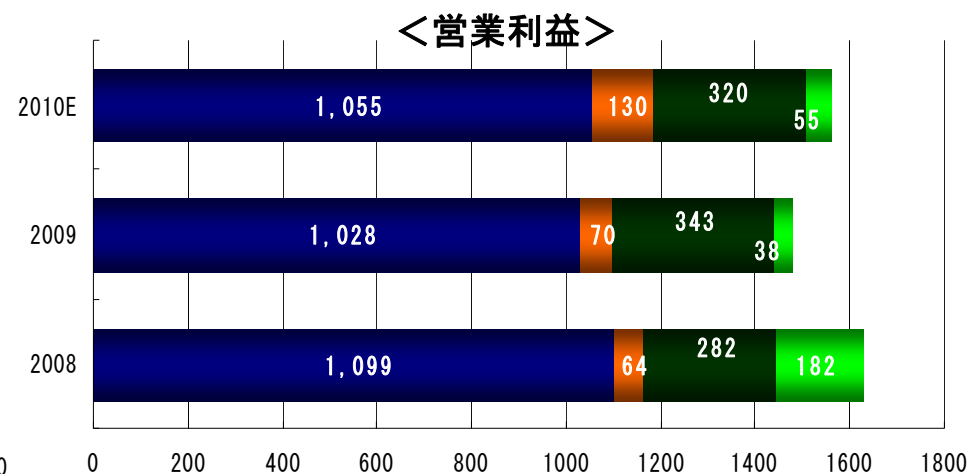
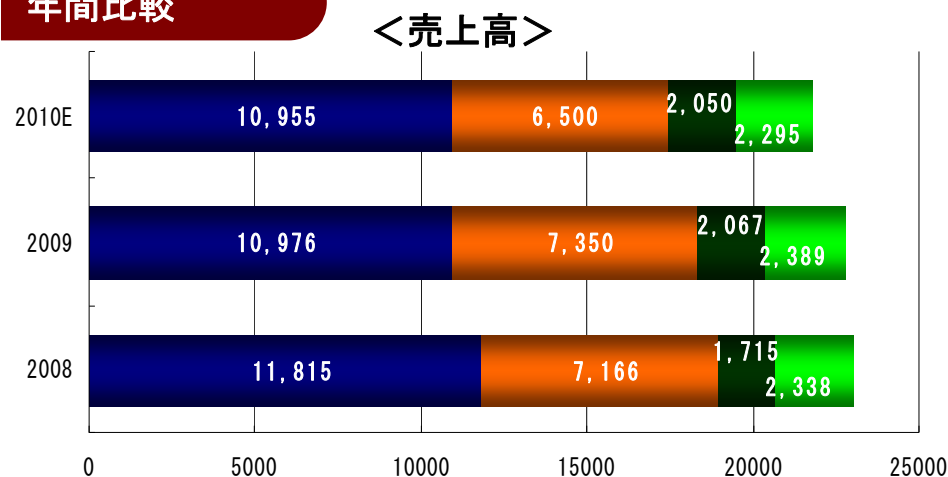
億円	2006	2007	2008	2009	2010E
売上高	16,659	18,011	23,035	22,784	21,800
営業利益	1,163	1,206	1,459	1,284	1,330
経常利益	1,208	1,233	1,030	1,446	1,250
当期純利益	535	667	801	491	350

事業セグメント別 売上高・営業利益の推移

第2四半期比較



年間比較



酒類
 飲料・食品
 医薬
 その他

(注) 売上高: 外部顧客に対する売上高、営業利益: 消去又は全社を除く

のれん等償却 2010年予定

(億円)	取得年	合計 (①+②+③)									
		小計 (①+②)							ブランド		
		投資差額			営業権				償却額 ③	未償却 残高	残年数
		償却額 ①	未償却 残高	残年数	償却額 ②	未償却 残高	残年数				
計：2006年以前発生 (A)		47			11			59	57		116
LION NATHAN LTD	1998	25	194	8	11	25	3	37	57	125	3
キリンビバレッジ	2006	19	309	16	-	-	-	19	-	-	-
その他		1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
計：2007年以降発生 (B)		323			6			329	49		379
協和発酵キリン・ キリン協和フーズ	2007	67	1,165	18	-	-	-	67	-	-	-
National Foods Limited	2007	46	1,146	18	6	164	18	53	28	691	18
J. Boag & Son Pty Limited	2008	13	95	8	-	-	-	13	4	35	8
San Miguel Brewery, Inc (持分法適用会社)	2009	59	1,107	19	-	-	-	59	16	329	19
LION NATHAN LTD. ※2009年4Qより完全子会社化	2009	136	2,594	19	-	-	-	136	-	-	-
合計 (A) + (B)		370			18			388	107		496

「のれん償却額」 小計①+②

(A) + (B) ※持分法適用会社を除く

関連：短信補足資料
参考資料1. 損益概況 (下脚注・EBITDA)、4. 主要費用等
2. セグメント別情報

「減価償却費」に含む ブランド償却額③

(A) + (B) ※持分法適用会社を除く

関連：短信補足資料
参考資料1. 損益概況 (下脚注・EBITDA)、4. 主要費用等
2. セグメント別情報

「のれん等償却額」 合計①+②+③

(A) ①2006年以前発生分 ※持分法適用会社を含む

(B) ②2007年以降新規投資分 ※持分法適用会社を含む

関連：参考資料

1. キリングループ連結財務指標ガイド

★為替の影響により変動します。

為替インパクト(豪ドル)

為替変動(豪ドル)が業績に与える影響(前年同期比概算)

(億円)

	2010年第2四半期実績	2010年通期予想
連結売上高	387	440
連結営業利益	33	30

参考) 為替感応度:1円円高 2010年通期予想 連結売上高△50億円/ 連結営業利益△3億円
*NFL決算期変更による影響を加味しております。

為替レート一覧表

(円)

P/L換算レート: 期中平均レート	2009年 第2四半期実績	2009年 通期実績	2010年 第2四半期実績	2010年 通期予想
ライオンネイサン ナショナルフーズ (酒類)	63. 20	70. 04	81. 69	80. 00
ライオンネイサン ナショナルフーズ (飲料・食品)	68. 87	74. 57	81. 58	80. 00

各社連結期間(変更のあるもの)

●2008年

	2007年				2008年											
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キリンHD																
キリンファーマ																
協和発酵工業※																
協和発酵キリン																
ライオンネイサン																
ナショナルフーズ																
サンミゲル																

※4月-9月：キリンファーマを含む連結決算分

●2009年

	2008年				2009年											
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キリンHD																
協和発酵キリン																
ライオンネイサン																
ナショナルフーズ																
サンミゲルビール																
サンミゲル																

※協和発酵キリン：2009年度は4-9月変則決算

●2010年

	2009年				2010年											
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キリンHD																
協和発酵キリン																
LNNF (旧LN)																
LNNF (旧NFL)																
SMB																

キリンHD決算期間

連結子会社

持分法適用会社

メルシャン不適切取引に伴う損失の決算上の影響

■メルシャン連結決算

億円		過年度分合計 2005～2009年	2010年
直接損失	不適切取引による損失	51	14
派生損失	減損損失および固定資産除却損	4	—
	法人税等調整額	11	3
合計		66	17

2007～
2009年分

2010年分

■麒麟ホールディングス連結決算

億円	①	②	2010年一括修正処理 合計(①+②)
営業内損失	—	11	11
特別損失	53※	3	56
法人税等調整額	11	3	14
少数株主持分処理	▲31	▲8	▲38
四半期純利益影響	33	9	42

※メルシャンの損失のうち、当社連結以前に発生した約4億円については、株式取得時ののれん償却費の差異として、当社持分に応じた約2億円が特別損失の53億円に含まれています。

KB営業部門の組織体制変更

■ キリンビール社の営業部門とキリンマーチャндаイジング社酒類部門の統合による新会社を設立

統合・新会社設立の狙い

より強固な営業体制の確立により、すべてのお客様との接点におけるキリンブランドの価値向上を目指す

- 今後の総需要減少を前提とした国内酒類事業の構造改革
- 生産部門(KB栃木工場・北陸工場の再編成、広島ブルワリー閉鎖)、物流部門(拠点・体制・システムの見直し)に続き、営業部門もさらなる構造改革に着手

新会社が目指す方向性

意思決定と活動のスピードアップによる
営業活動力の強化と効率化の推進

得意先企業との本部商談から量販店や飲食店の店頭活動まで一貫して
マネジメントできる体制整備

地域に密着した営業体制の強化

地域に根ざした働き方や多様な人材の登用ができる諸制度の導入

新会社の概要

※新会社の詳細については2011年春を目処に検討

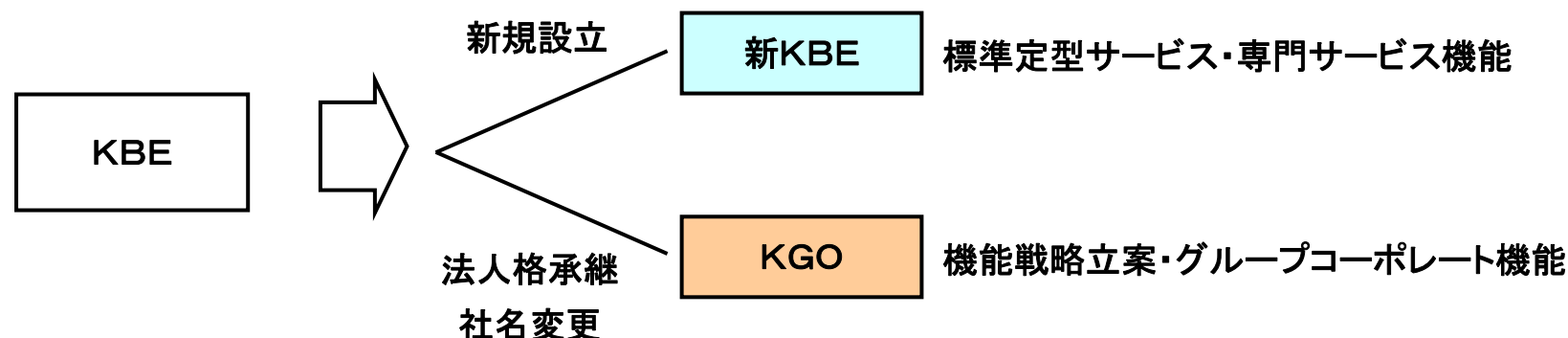
- 所在地 東京都渋谷区神宮前6-26-1
- 設立 2012年1月1日(予定)
- 主要株主 キリンビール株式会社100%出資
- 事業内容 酒類・飲料の営業および販売促進
- 売上高 8,537億円(キリンビール社2009年実績)
- 従業員数 約3,500人(現時点での見込み)

KBEの組織改変

- グループ共通の間接業務サービスを提供しているKBEを分割再編
- より効率性の高い業務遂行を市場競争力のあるコスト水準でグループに提供

改組の概要

新KBE・KGOともに2011年1月1日より業務開始(予定)



会社概要

キリンビジネスエキスパート株式会社(新KBE)	キリングroupオフィス株式会社(KGO)
代表者: 未定	
所在地: 東京都中央区新川2丁目10-1	
2010年12月設立予定	現KBEより法人格継承・社名変更
KH100%子会社	
従業員: 約170名(予定)	従業員: 約230名(予定)

キリンの健康プロジェクト **KIRIN** Plus-i

おいしさを笑顔に
KIRIN

- グループ横断ブランド「キリン プラス-アイ」のもと、「お客様がいくつになってもおいしい食生活を楽しめる喜び」を提供する商品をグループ4社から発売(4月)
- 発売約4ヶ月で年間販売目標50億円を突破
- 共通素材オルニチンが日経MJ上期ヒット商品番付ランクイン オルニチン販売量も5倍に

プロジェクト第一弾商品は、回復系アミノ酸オルニチン(※)を共通素材として使用

各商品には協和発酵バイオ社が生産するオルニチンを400mg(しじみ約900個分)配合

休む日のAlc. 0.00%(キリンビール)



休肝日を推奨する新ノンアルコール・ビールテイスト飲料。しじみ900個分の回復系アミノ酸オルニチン配合。しっかりした飲みごたえとコクのある味わい。

大人のヨーグルト(小岩井乳業)



毎日忙しいあなたへ、明日の元気！
大人の新習慣ヨーグルト。じっくり発酵したヨーグルトに「回復系アミノ酸オルニチン」を配合。
〈夜のバニラ味〉と〈朝のグレープフルーツ〉の2種。

大人のキリンレモン(キリンビバレッジ)



大人の元気を応援する、糖類ゼロの健康炭酸。大人にうれしい健康成分「回復系アミノ酸オルニチン、クエン酸、ビタミンB6」配合。早摘みレモン果汁1%。

Cayu~na(かゆ-菜)(キリン協和フーズ)



回復系アミノ酸オルニチンを1食あたり、400mg配合したフリーズドライのお粥。お湯を注ぐだけで簡単に作れ、カロリーは100Kcal以下。梅粥、鮭粥、たまご粥の3種。

ウコン[ダブル](キリンビバレッジ)



「ウコン」と「回復系アミノ酸オルニチン」のダブルパワー。ウコン独特の苦みを抑えた、飲んですっきり、柑橘系。無果汁。

※オルニチンは体内で使われても自らがオルニチンに戻るので回復系アミノ酸と呼びます。

※商品に使用しているオルニチンは、しじみ由来ではなく、発酵法によって製造されたアミノ酸です。

KB・ME・KBC 下半期新商品

※7月末現在

おいしさを笑顔に

KIRIN

キリンビール



8/25



9/15



10/6



11/2



10/13

Mercian



8/25



9/15



11/18

キリンビバレッジ



8/3

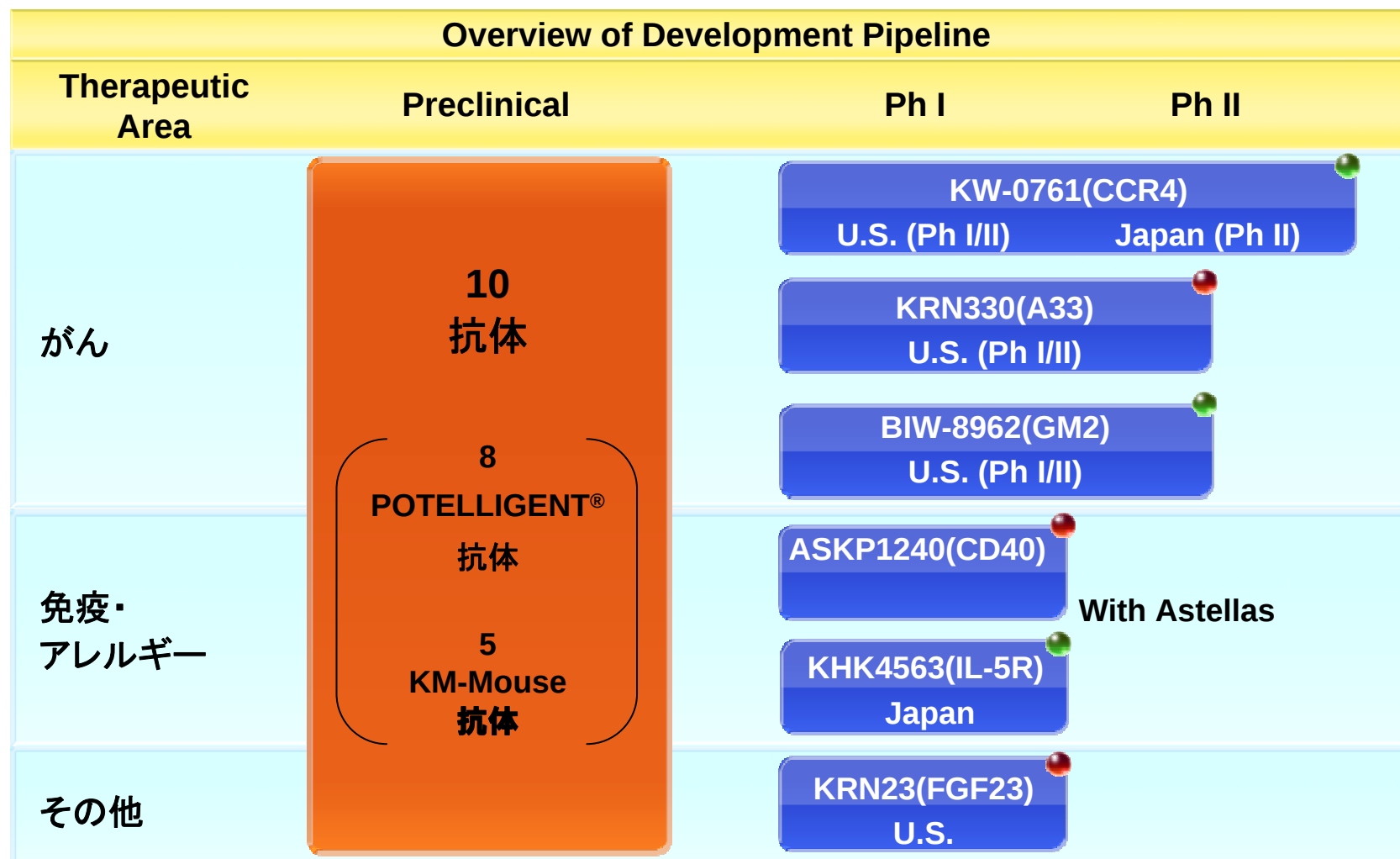


8/24



8/31

抗体医薬パイプライン (2010年7月現在)



● : POTELLIGENT® Technology

● : KM-Mouse Technology

ライオンネイサン ナショナルフーズ

おいしさを笑顔に

KIRIN

Lion Nathan National Foods

飲料・食品 営業利益増減		億円	売上高	営業利益	酒類 営業利益増減	
10年第2四半期	+38	09年第2四半期※	1, 991	112	10年第2四半期	+8
10年年間(E)	+26	10年第2四半期	1, 659	138	10年年間(E)	△30
		10年年間(E)	3, 850	243		

(※)LNNF2009年第2四半期実績は、LNおよびNFLの単純合算

酒類

豪州ビール事業が、基盤ブランドの健闘、市場のプレミアム化および機能性商品伸張に対応することで、引き続き全社を牽引。Boag'sブランドの成長も貢献

飲料・食品

乳製品および果汁飲料市場は引き続き厳しい市場環境にあるものの、最優先課題である事業統合およびブランド強化を推進。最適な事業基盤構築に向けた活動を継続

統合の進捗

- ・コーポレート機能の統合を完了し、各部門毎にベストプラクティスの共有化を推進
- ・製造拠点最適化に向けて再編を実行



サンミゲルビール

KH連結純利益

億円	SMB	SMC
2009年第2四半期	—	▲6
2010年第2四半期	43	—
2010年通期(E)	44※	—

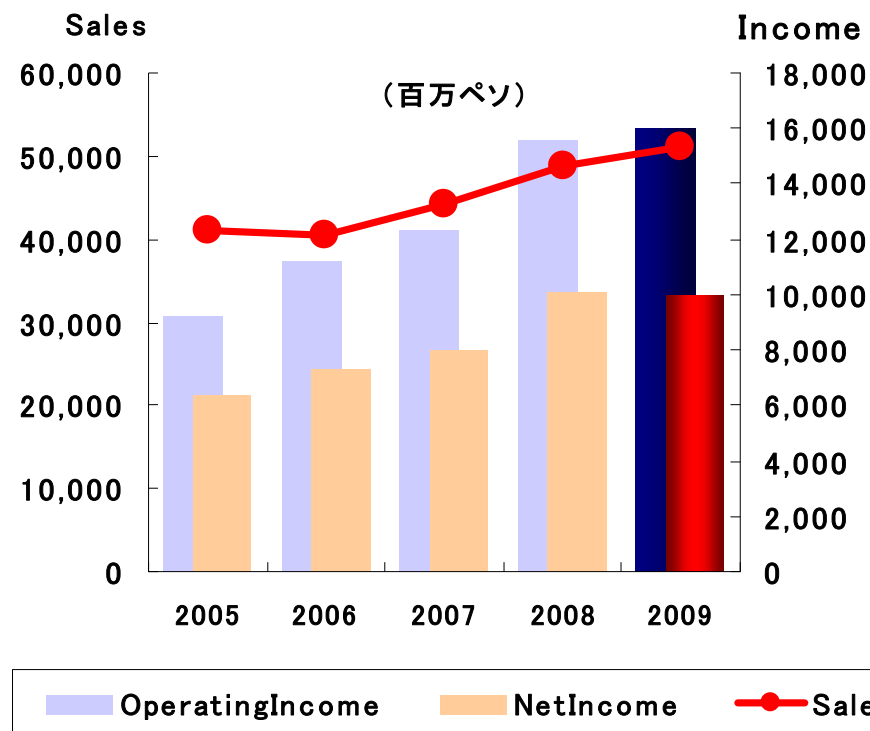
※通期見通は、H20年10月～H21年9月の実績外貨額を基礎として計算

主な商品群



※SMBは07年10月SMCよりスピノフ。05-07年はIPOの時に公式発表(Proforma Financial Statemet)したビール事業実績より抜粋。以後はSMB開示情報

現地販売状況



SMB

2010年の販売状況は、フィリピン経済が順調に推移していることを背景に、年度計画、前年実績に対して好調に推移

SMBIL

数量・売上高・営業利益ともに苦戦しているが、前年実績に対しては、インドネシア・香港での値上げと輸出部門におけるブランドミックス改善により、利益ベースでは改善

F & N社概要

社名	フレイザー・アンド・ニーヴ社 (Fraser and Neave Limited.)
本社所在地	シンガポール
設立	1898年
会長	リー・シエン・ヤン (Lee Hsien Yang)
資本金 ²	純資産: 約56億シンガポールドル(約3,537億円) ¹ 総資産: 約139億シンガポールドル(約8,782億円) ¹
主要財務数値 ³	売上高: 約53億シンガポールドル(約3,377億円) ¹ 営業利益: 約8億シンガポールドル(約513億円) ¹ 税引後利益: 約4億シンガポールドル(約280億円) ¹
従業員数	約18,000名
事業概要	飲料事業のほか、乳事業、ビール事業及び不動産事業等を有する複合企業グループ。 F&N社の飲料事業は、マレーシアにおける機能性飲料においてシェア90%を有するなど、 シンガポール、マレーシアをはじめ、東南アジア市場において清涼飲料事業および乳飲料事業を幅広く展開
主要飲料、乳製品 及び酒類ブランド	飲料ブランド: 100PLUS(機能性飲料)、F&N(炭酸飲料)、SEASONS(茶系飲料) 乳製品ブランド: Magnolia、Fruit Tree Fresh、Nutrisoy、Nutritea ビール: Tiger、Anchor、Baron's、ABC

出所: 2009年 F&N社アニュアルレポート

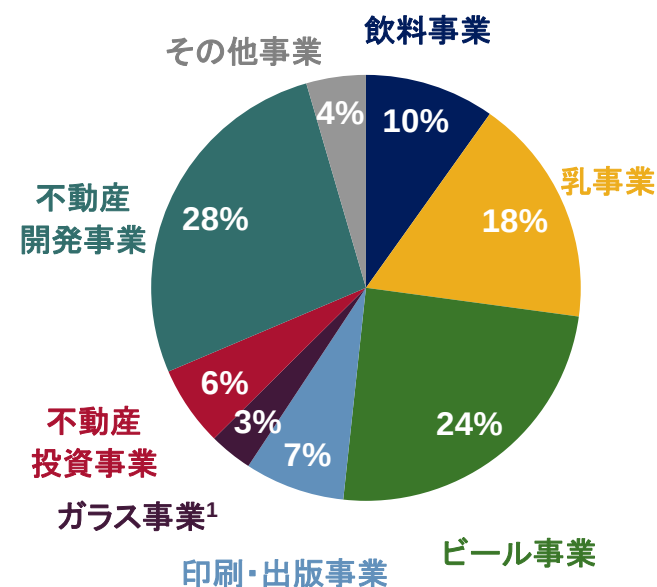
¹ 1シンガポールドル=63.33円(2010年7月23日現在)² 2009年9月末時点³ 2009年9月期

F&N社セグメント別業績概況

■ 2009年9月期 セグメント別業績 (単位: 百万シンガポールドル)

事業セグメント	売上高 ²	営業利益
連結	5,333	811
飲料事業	542	60
乳事業	978	61
ビール事業	1,352	207
印刷・出版事業	417	(1)
ガラス事業 ¹	193	17
不動産投資事業	340	186
不動産開発事業	1,504	270
その他事業	243	11

■ 2009年9月期 事業セグメント別売上高構成³



■ 事業セグメント別主要子会社及び関係会社 (() 内はF&N社による出資比率)

- 飲料・乳事業: Fraser & Neave Holdings Bhd (57.4%)
- ビール事業: Asia Pacific Breweries Ltd (39.7%)
- 印刷・出版事業: Times Publishing Ltd (100.0%)
- 不動産事業: Frasers Centrepoint Limited (100.0%), Frasers Centrepoint Trust (51.0%), Frasers Commercial Trust (22.5%)

出所: 2009年 F&N社アニュアルレポート

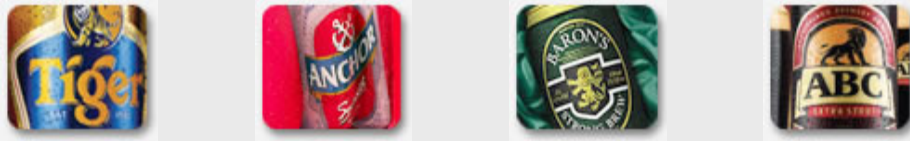
¹ F&N社の連結子会社であるFraser & Neave Holdings Bhd社はガラス事業を売却済(2010年7月完了)

² セグメント別売上高において消去分は記載していない点に留意

³ 消去分を除く

強力なF&N社飲料ブランド・ポートフォリオ

F & N社は機能性飲料、炭酸飲料及び乳製品の各カテゴリーにおいて、強力なブランド・ポートフォリオを保有、特にマレーシア・シンガポールにおいては機能性飲料及び炭酸飲料のトップブランドとして確立

主要飲料・乳製品ブランド	機能性飲料	100PLUS	
	炭酸飲料	F&N	
	茶系飲料	SEASONS	
	乳製品	Magnolia Fruit Tree Fresh Nutrisoy Nutritea	
ビールブランド	ビール (Asia Pacific Breweries)	Tiger Anchor Baron's ABC	

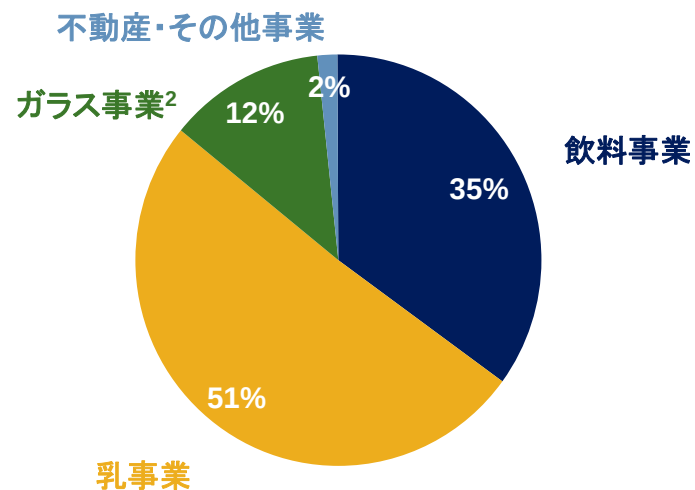
出所: 2009年 F&N社アニュアルレポート等

F&N社 食品飲料事業¹概要

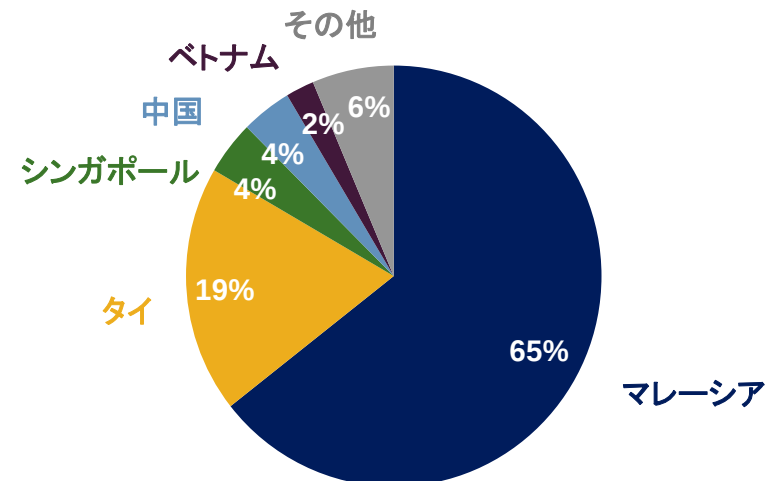
F&N社の食品飲料事業¹は主にFraser & Neave Holdings Bhd(マレーシア上場会社、以下FNH社)がマレーシアを拠点に展開

<FNH社 2009年9月期 連結売上高:3,737(百万マレーシア・リングット)>

FNH社 2009年9月期 事業 セグメント別売上高構成



FNH社 2009年9月期 地域 セグメント別売上高構成



¹ ビール事業を除く

² FNH社はガラス事業を売却済(2010年7月完了)